

千秀だより

横浜市立千秀小学校令和4年（2022）4月7日

4月号

URL : www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/



学校

校長 富田 操

本日、新しい仲間、新入生30名を迎え、全校児童212名で喜びと希望に満ちた令和4年度をスタートします。

今年度も、子どもたちの一層の成長を目指し、教職員一丸となって千秀小学校の教育に取り組んでまいります。どうぞよろしく願いいたします。

新年度を迎え、それぞれの子どもたちが、それぞれの思いをもって学校へ来たことでしょう。ある子は、期待に胸をふくらませ、ある子は、今年こそ自分を変えるのだと誓いながら、ある子は、また始まっちゃったかぁ・・・と思いながら。千秀小212名の子どもたちが212通りの気持ちで、登校したにちがいません。

思えば、学校とは不思議な場所です。同じ年齢の何十人という子どもたちが、教室というあの狭い空間に整然と座らされ、一齐に同じことに取り組み、同じことを学ぶ・・・。212名の子どもたちは、それぞれ違う個性をもち、それぞれ違う考えを持っているにもかかわらず、です。

そう考えると、学校という場所に違和感をもつ子がいても何ら不思議はありません。小学校は、義務教育の場です。しかし、ご存じの通り、この義務とは、保護者が子どもに「教育を受けさせる義務」であって、子どもにとっては義務ではなく、「教育を受けることができる権利」です。つまり、子どもにとって、学校というところは、自らが選び、教育を受ける権利を行使する場であると言えます。

ですから、極端な言い方をお許しいただけるなら、学校は子どもにとって絶対に行かねばならないところではないとも言えます。子どもは、自分の「意志」で学校へ行くことを選び取った結果、学校に来るのです。本来、学校というところは、そうしたところであり、学校に行かないことは、決して単純に「悪いこと」とは言えません。

しかし、私は、教職員の端くれとして、「それでも学校は素晴らしいことが起きる場所」だと自信をもって言えます。学校は、学校という場でしか起こりえないことが起こる場所です。そして、それは、やはり、ある角度から見ると間違いなく、確実に子どもを成長させます。学校でしか起きない「感動」や、学校でしか生まれない「同世代への信頼感」。学校でしか実感できない「集団でいることのよさや価値」。それが、これから生きていく上で、子どもたちをどれだけ支えていくことなのでしょう。

千秀小学校は、それをできるだけ多く起こすことができる学校でありたい。そう心から願います。そして、それを、行事も含めたすべての「授業」で起こしていきたいと考えています。そのために、学校はあらゆる力を集中していかなければなりません。

あらゆる力とは、教職員の力はもちろんのこと、保護者の皆様の力、地域の方々の力であり、学校にかかわる全ての人間が、「子どもの幸せ」という一点に向かってその力を使っていくことが必要です。どうか、そうした「授業」を行える学校であり続けられるよう、お力をお貸しください。今日が今年度のそのスタートの日です。

今年度も、一年間、どうぞご理解・ご支援のほどよろしく願いいたします。